

令和3年度 1学期終業式 式辞

R3.7.21

コロナ禍2年目となる令和3年度の1学期が終わろうとしています。幸いなことに、臨時休校もなく、大きな行事こそ実施できませんでしたが、雄中生の皆さんは、学習に部活動に生徒会活動に全力で取り組み、着実に力を付けてこられました。

特に昨年度との大きな違いは、部活動の大会を実施できたことです。先ほどの受賞報告どおり、昨年度は実施できなかった新川地区大会や県選手権大会において、特に3年生は、これまでの練習の成果を発揮し、大きな実績を残してくれました。

昨年度は、「当たり前だと思っていたことが、実は当たり前ではなかったこと」に気付かされた1年間でした。その我慢と辛さを経験したからこそ、今年度、普通に学校生活があること、友達と話せること、教室で一緒に学ぶこと、あたりまえのように部活動をして大会に参加できること。一つ一つのありがたみが、しみじみと感じられますね。

どんなことでもそうかもしれません。あって当たり前のことなど、本当はないのです。身の回りの人や物、日常のあらゆることが、当たり前のようにあることは、本当は幸せなことなのですね。そのことへの感謝を忘れず、自分の人生を支えてくれている身の回りの存在の大切さを、じっくりと見つめ直してみてください。そのかけがえのなさに「感謝」する心が、皆さんの成長へのカギとなるでしょう。

さて、本日発行の学校だよりも書きましたが、この度、雄山中学校の「校訓」を新たに制定することにしました。「校訓」とは何かわかりますか。辞書には「学校が定めている、教育に関する目標や方針などを成文化したもの」また「学校関係者が教育に向かう意識の統一を図るもので、学校の核となるもの」とあります。通常は、学校創校時に校歌や校章等と同時に制定されることが多いのですが、なぜか本校には校訓にあたる言葉が見当たりませんでした。そこで、いろいろ探していたところ、ありました。それも校歌の中に。昭和35年制定の60年間愛され歌い継がれてきた校歌の中に「校訓」にあたる言葉がちゃんと歌い込まれていたのです。それが、「かざせよ 高き理想」「たずねよ 深き真理」「かさねよ 厚き工夫」「鍛えよ 強き身体」の4つの言葉です。昭和を代表する歌人木俣修さん作詞のこの校歌。歌詞そのものが雄中生の健やかな成長を願って、力強いエールを送ってくれているかのようです。

「まず人生の目標となる『高き理想』を掲げよ。そして『深き真理』を求めて謙虚に学びを究め、心静かに自らを省み『厚き工夫』を重ねるように夢を育て、鍛えた『強き身体』で未来を切り拓くのだ。」

こんなにも明らかに、人としてあるべき成長の姿と心正しき生き方を示している校歌・校訓が他にあるでしょうか。郷土の誇りである立山の四季折々の自然と風物を織り込みながら、生涯にわたる「生きる指針」を与えてくれているこの校歌は、後世に伝えるべき本校の宝です。

今後、全教室の正面に、「校訓の額」を設置したいと思います。また、各行事の始めには、全校生徒が声を合わせて校訓を唱和する「校訓唱和」を行いたいと考えています。

今後、この校訓のもとに生徒・教職員が心をついにし、将来、世の中を支え発展させる「賢さ」と「強さ」と「優しさ」を合わせもつ、**立派な雄中生が育つ学校**を共に創っていきましょう。

明日から夏休みに入ります。心と体のエネルギーをたっぷり充電し、2学期、また一緒にがんばっていきましょう。